

バヌアツ サント島ルーガンビル市 での音楽教育普及目指して

秋山 喜代

(17-1, バヌアツ, 音楽, 名古屋市立稲西小学校長)

宜しく申し上げます。名古屋市稲西小学校の秋山です。今日は久々の同期隊員と会えて嬉しい思いがいっぱいなのと、あと2年ほど前に私が行く前にちょうど同じような時期にこの発表会があったときには、ちょうどこれから行く先生たちがたくさんいて私もその一人だったんですけど、少しでも情報を得ようと思って参加した思い出がありますので、これから行く先生たちのためにというようなかんじでつくってきたので、ざっと見たらちょっと偉い感じの先生もたくさんいらっしゃるようで緊張するんですけど気軽に聞いていただければと思います。

私はバヌアツサント島ルーガンビル市というところで小学校教諭として派遣されました。小学校教諭と言っても JICA の要請書に書いてあったのが、英語、仏語、幼稚園クラスで担任等教師と共に音楽の指導を行い音楽の指導法について研究、指導マニュアルの作成や校内音楽会の開催を目指す。また教科書、カリキュラムの作成への提言や助言も行うという3行広告を見て、ルーガンビル市に配属されましたので、主に音楽教育に携わりました。これがバヌアツサント島ルーガンビル市です。私、今日この会場にずっといるんですけど、大体聞いていると首都の方が多くて私はかろうじて首都ではない第二の都市なんですけど、同期隊員には笑われますが首都とルーガンビルを比べると、東京と石垣くらい違うんじゃないかというくらい田舎で、人口は2万人、食べ物はマーケットの写真が出ていますが、あるときにはあるけどないときにはない。学校の写真が下の方に載っていますがウォータタンクに水を取って子どもはそこから水を飲む。グランドはさっきの中沢さんとはちょっと違うんですけど、広々としてどこまでも続いている。私の家が最後に載っています。私は第2代だったのでもうすでに・・・とか窓に泥棒さんが入らないようにしてもらったり、・・・が入っていたりとか、・・・自分で守っていました。

JICA の要請を受けて自分の活動内容は自分で決めるんですけど、以上のこのような6つを自分で考え出して実践してきたつもりです。最後のインターネットライブ授業というのは現職教員ネットワークなんか途中で入ってきたものなので、またあとからお知らせします。ひとつずついきたいと思います。日々の授業は音楽を行うんですけど、バヌアツの音楽教育は非常に歴史が長くてですね、もうすでにこんなような教科書が、最初にも出ていますけどずっと歌集のように載っています。バヌアツは英語クラス、普通語クラスと、イギリスとフランスに統治されていた時代があるので両方のクラスに、これはイングリッシュの教科書なんですけど、フレンチの教科書

もあったりして、このような教科書がもうすでに配布済みでそれを使って授業をしてくださいというのが第一の案件です。私が使っているキーボードが出ていますが、これは前任者が用意したもので、ちょっと次の項目と重なるんですけど、現地の先生と一緒にやっている鍵盤ハーモニカは私が調達してきたものです。日々の授業の様子をちょっとだけあるので少しだけ参考のためにあまり上手ではないですが見ていただければと思います。私は全然ピアノは弾けないんですが、一応弾くから担任の先生に指導しなさいとかいう体制をもっていって、これは英語の歌なんですけど、学校では英語とフランス語を使わなければいけないけど、私は英語もフランス語も苦手だからビスマラ語で、現地語はビスマラ語なんですけど、現地の先生に説明して、やってって言うてこうやってアクションさせて。主に音楽の授業です。主に2人で指導して、分からないところは英語はわからないからと言って現地の先生にも参加してもらって。さっきこれ鍵盤ハーモニカを吹くんですけど、すごい状態になりますが、触ることだけでも意味があるかなと思ってやりました。まあ辛抱強くこんな感じで授業をしていました。

次に考えた日々授業していく上で、やっぱり音楽である以上用具が必要だと。あの授業の時にも思っていたんですけど、バヌアツにないリコーダーとかキーボードとか鍵盤ハーモニカを使って音楽を教えることに果たして意義があるんだろうかとすごく悩んだ時期もありました。ただ10年続いている歴史を変えてバヌアツカスタムの音楽にしていこうというような強い流れもなく、ずっと流れに乗ってしまったという感じです。ですからキーボードは前任者が用意していて、リコーダーも前任者が英語クラスの分だけは用意していたので、残ったものとか自分の現地の先生が送ってあげるよと言ったりとか、あとフランス語クラスのほうは笛がなかったので隊員支援経費などを申請して買ってもらったりとかしていました。もうひとつはJICAの持っている、世界の笑顔のためのプロジェクトですか、もう1こ協力隊を育てる会みたいなものがあると思うんですけども、何かを得たいと思うときにいろんな方法があるんだなというのはここで勉強しました。

だんだん授業をしていくうちに授業していてもいいんですけど、いつまでも私がしていても仕方がないんじゃないかということでカリキュラムを作りたいなということが出てきます。これはバヌアツの音楽のカリキュラムが書いてある、これ訳して、どうやってカリキュラムを作ろうと考えるんですけど、そういうときに役立つのは日本での教育経験しかなくて、果たしてそれがいいのかどうかわからないんですけど、日本だと4観点にだいたいわかれていますよね。評価も教育観点がシンキングと…とか鑑賞とか創作表現とかを学年ごとにちゃんと目標を作ってそれを英訳して、こんな作ってみたんだけど園長先生に提案して、それをこと細かくここに教科書によって1曲1曲これをやるんだよっていうのが、これを教えるんだよというのを日本語で書いてなくて英語とかフランス語で訳してもらって、それを持ってこの日はこれをやるんだよというプランまで作って授業をするんですけど、なかなかそんなに、じゃ

あわかんないからやってとか言われたりとかして。でもだんだん慣れてくると現地の先生も、これリズムうちの練習なんですけど。（ビデオ）実は八拍子をやりたかったんですが、この先生が勝手に七拍子に変えてしまったので、それもしょうがないかなと思ってるんですけど、そんな感じでだんだんと現地の先生にわかるところからやってもらうようにしました。現地の先生が一番言ったのは、カリキュラムがあっても要するにそれに伴う技能がないといけないということで、ワークショップを開催して、私は島隊員だったのでちょっと首都は離れていたのだからわからないのですが、首都はもう長い歴史なので、ミュージックパネルグループというグループがあって、そこで毎年首都でワークショップをやっている、音楽指導法に対する。ただ、音楽指導法という笛を吹くのは好きとか鍵盤ハーモニカをするのが好きというのはわかるんですけど、その吹き方を教えに来ているわけではないと思うんだけどというのがすごい自分の中にあって、音楽をどうやって教えるのか、たとえ吹けなくたって子どもはできるようにするというのを、簡単な資料を作ってワークショップで行いました。でもやっぱり現地として興味があるのは笛はどうやって吹くのかこの笛はもらえるのか、そういうことに終始してしまった感じはあります。

次に2つ目は日本の学校とかでもそうだと思うんですけど、啓蒙はしていきたいなと思いました。何を教えたかと言われると、やっぱり情操教育が全然発達していないという点の大切さを知って欲しかったのと、音楽とか図工ともう1つちょっと忘れちゃったんですけど、Artという教科の中にひっくるめているんですけど、非常に曖昧な表現で、指導の必要性ですね失礼しました、曖昧な表現でどの時期にどれをやるのか指定がされていないんですよ、そこをなんとなくこう、私のほかに5,6人音楽隊員がバヌアツでも散らばっていたんですけども、そこに分かってもらえないとたぶんカリキュラムとかも変わっていかないだろうなと思いましたので、日々の授業で子どもがたとえば算数とか国語、英語とかフランス語とかできなくても、音楽はできるようになればいいのか、ワークショップでだんだんそういうことを説明したりとか、これは校内音楽会の写真ですけども、校内音楽会を開くと親が見に来て子どもの様子をなんか成長したと日本だと思うんですけど、バヌアツはあんまりそう考えないみたいで、結構これも11時くらいまでかかってやったんですけど、一応目標としては、音楽会を開くとちょっと現実的ですけど、ファンドレイジングとしてお金が集められる、そうすると学校で物がたくさん買える、音楽はそういうことにも役立つんだということからでもよかったので、その上の2つを情操教育の大切さを分かってほしかったんですけど、ここ非常に難しかったところで、出来たかどうか非常に謎だなと今でも思っています。いろんな人、どの隊員もこんなことやって意味があるのだろうかとか本当に泣きたくなる日々がたくさん続いた中でできたのがインターネットライブ授業で、バヌアツに前いた隊員が横浜にいて私の現地校とインターネットで結んでライブ、生の授業をしようと、お互い文化を紹介しあうという点に終始したんですが。これがバヌアツの写真、こんな感じでずっとやっています。これはなんか練習してい

るところなんですけど、この先生すごいいい先生で一生懸命にやってくれて、当時筑波大学の先生と校長先生たちと一緒にインターネットライブ授業をやりました。・・・ビデオ・・・むこうの映像とかと交換しながら、私の名前はなにになにですとやったりとか、これは最後の感謝の言葉。・・・ビデオ・・・1回目がこれで2回目もやったんですけども、ボランティアしている間に教員としての仕事もちょっと入ってきたりとかして自分にとってはいい刺激になりました。

短い任期を終えて思うことは、これから派遣される方々へなんですけど、自分でも2年行ってきて意義のあった時間だとは思いますが、果たして自分のやったことが身になったかとか貢献できたかという、非常に疑問に思うことは今でも思います。これから行かれる方々にはやっぱり活動においては、自分が必要だと思ったことはしていいと私は思います。もうちょっと言い方を変えると、したいことはする、したくないことはしない、そのくらいの強い意志が必要だと思います。したいことをしても、基本的にボランティアなので評価が付いてこない。だからその是非がよかったか悪かったかというのは自分で判断しなくちゃいけなくて、たとえ失敗、やっぱりこれは失敗だったなと思ったら、結構私はくじけてないタイプなんですけど、くじけないことが大事で、失敗したらまた次とか、これでもよかったんだと思うような心が大事棚と思います。生活においては自分はこれ学んだんですけど、自分のことは自分でするというのを徹底的に、自分の健康、自分の安全というのは全部自分で守るんだということは徹底的に仕込まれました。自分でできることは自分で行うことが基本だと思います。だから、私は英語もフランス語も中途半端で終わりましたが、現地語だけは何とか覚えて帰ってきました。覚えないとガスも通らないし電気も通らないし電話も引けないし授業もできないし、それにおいて自分のできることは。私が一番嫌だったのは住んでいる家のトイレがすごい汚くてそこだけはどうしても我慢できなくて、学校に交渉してトイレかえてくれとすごい交渉した結果変わりました。何を大事にするかというのは人によって違うし、それは自分の思いで行動して私がいいと思うので、自分でできること自分で行えばいいと思います。いろんなしがらみとかできないこともいっぱいありますけど活動においても。後悔のないように活動していただければいいかなと思います。ただ、どうしてもできないことをできないってすごく落ち込む日もあるんですけど、人に頼って解決するんだったら遠慮なく人に頼ってもいいんじゃないかな。私もすごい頼り下手で結構自分で抱え込んでしまって、体調を壊した時期もありましたけれども、遠慮なく人に頼るそういう勇気も皆さんに持っていただければと思います。短いですけども、以上です。